

あしつ 育成だより

1

立教 180 年 1 月 23 日発行
編集 / 芦津大教会育成部

特集 ①教会長子弟育成プロジェクト ②後継者講習会



育てようとする者の
成人の努力が欠かせない

《親のことば》

自らの意思によって思召にかなうようばくに育とうと
いう気持ちになるように、手助けをすることが丹精の
役割と言えるでしょう。また、育てる側と育てられる
者とは、決して一方的な関係ではありません。人を育
てるためにはまず、育てようとする者の成人の努力が
欠かせません。また、人を育てることを通して、自ら
も一層成人させていただけるのであります。

(教祖百三十年祭 真柱様神殿講話より)



教えは伝えるもの

——— すべての子弟を道につなげる努力を

信仰は自然に伝わるものではなく、意識して「伝える」もの。育成する側の私たちが、まず我が身を振り返り、意識・姿勢を変えることで、子弟の歩みも変わってくる。すべての子弟がお道につながるよう、自分たちができる「人を育てる努力」を、今から共に進めていこう。

ご本部より発表された「教会長子弟育成プロジェクト」は、教会長子弟すべてが、「教会にとってなくてはならない人材」に育つよう、3年間、全教を挙げてその体制作りに取り組もう、というものです。

自動的には伝わらない

現在、教会長子弟でありながら、道から離れていく人が少なくありません。緊急の課題として、教会家庭での縦の伝道のあり方について、真剣に検討しなければなりません。

教会長の子弟であっても、信仰の道へ導くには、一人の未信者を導く場合と同様の心がけが必要です。未信者に対して話をするときには当然、丁寧に説明をしようと考えますが、我が子に対しても同じようにしているでしょうか。物心がついて神殿で手を合わせ、「こどもおちばがえり」に参加しているでも、信仰心からそうしているわけではありません。親は子供に対

して、どこかのタイミングで本人自身の信仰心が養われるよう、導いていく必要があります。私たちは心のどこかで「教会で育てば、親から子供へ信仰が自動的に伝わる」と考えてはいないでしょうか。

今、日本では少子化が進み、教会長・布教所長子弟の数は17年間でおよそ30パーセント減少しています（右下図参照）。将来お道の活動の上に核となって勤めてもらいたいとの期待がかかる若者の絶対数が減少していることは、次代の道を考えるときに大きな懸念材料です。

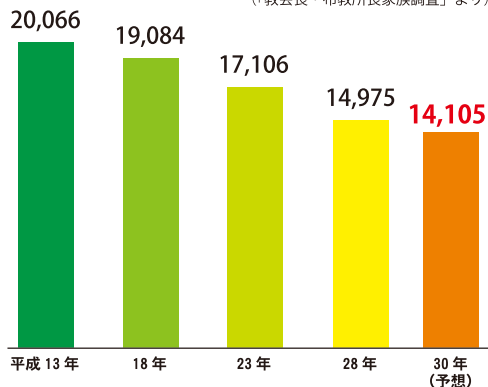
親が強い信念を

縦の伝道について教内を見渡すと、子供が信仰を受け継ぐか否かについて、結果的に子供の意志に任せてしまい、次の代へと信仰が続いていかないことがあります。子弟に信仰信念を伝える上で大切

なことは、「代を重ねて信仰をつなぐ」という意識を親が強く持つことです。子や孫へ信仰を伝え、成人を重ねることでいんねんが切り替わり、我が子にもたすかる道を歩ませていく、という信念が、子供に信仰を伝えていく力の源になります。

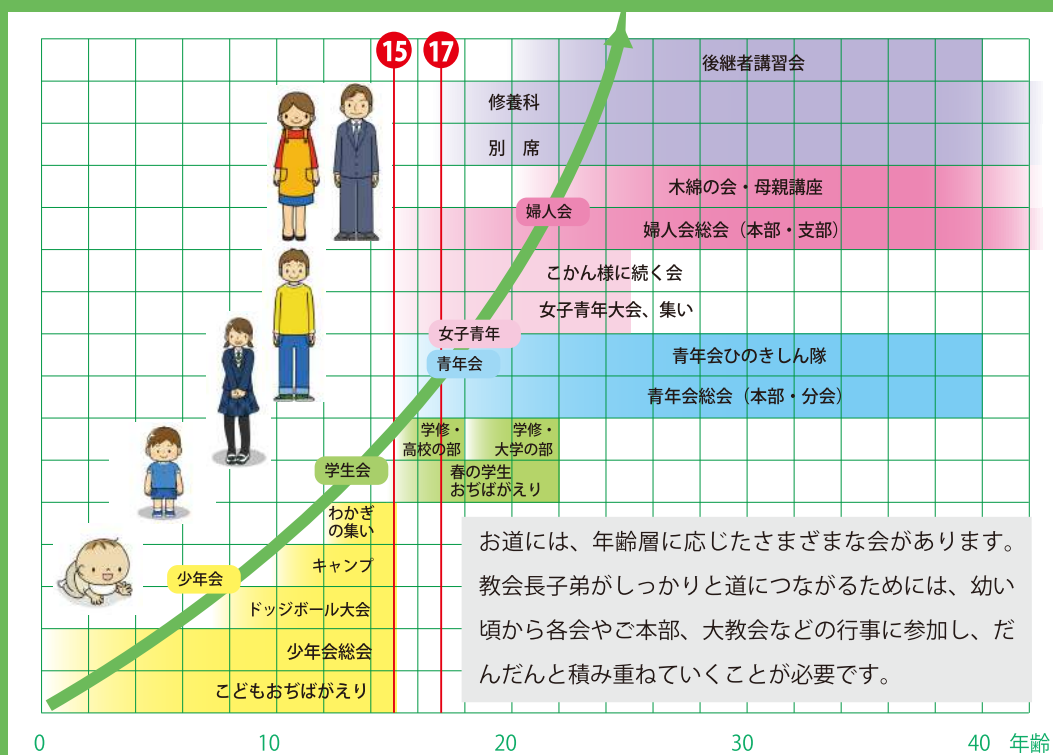
何よりも大切なことは、日々の生活の中で、子供へ「信仰の喜び」を伝えていくことです。そのためには、親自身が信仰者と呼べるに相応しい姿を身に付け、その姿を子供たちの目に焼きつけ、さらには言葉でも伝える努力を重ねなければなりません。

教会長及び布教所長子弟
中学1年生～大学4年生（10学年）の人数
（「教会長・布教所長家族調査」より）



すべての教会長子弟を 立派なようばくに育てよう！

―子弟育成のための各会の主な行事―



教会の現状を洗い直す

教会長夫妻が後継予定者だけでなく、子供たち全員をしっかりと道につげるように努力し続ける姿は、信者や部内教会に届き、教会内で縦の伝道の空気が広まるでしょう。

逆に我が子が一人でも信仰から離れてしまうと、所属ようぼくや部内教会へ向けて、縦の伝道を促すことにためらいが出てくることもあるでしょう。

まずはお互い責めることなく、甘んずることなく、現状を洗い直して、子弟育成について改めて取り組みたいのです。

既存の行事を活用して

「教会長子弟育成プロジェクト」は、道の将来を担う人材の中核になってほしい教会長子弟全員を、

全教が一丸となって丹精していくことを目指します。

そのために、何か新しく特別な行事を行うわけではありません。旬々のご本部、大教会の行事や、婦人会・青年会・少年会・学生会などの会活動などに積極的に参加を促し、教会長子弟が「信仰の喜

び」を実感できるよう、心を配り、声をかけ続けることが大切です。

彼らすべてが、信者、ようぼくの先頭に立って教会の御用をつとめる人材に育つよう、お互いに信念を持って、腰を据えて育成に取り組み、親神様の親心にお応えさせていただく道を歩みましょう。

「教会長子弟育成プロジェクト 今後の動き」

●教会長子弟育成者講習会 (大教会開催)

●立教 180 年 3 月 24 日 午後 2 時

●対象：大教会在籍者、直属教会長夫妻、後継者夫妻、育成プロジェクト直属担当者

●内容：大教会長様お話、大教会 3 年間の計画発表、ビデオ、ねりあい

●教会長子弟育成者講習会 (各直属教会で開催)

※直属教会長夫妻、後継者夫妻、プロジェクト担当者が実務を行う

立教 180 年 4 月～7 月

対象：部内教会長夫妻、後継者夫妻

内容：直属教会長様お話、直属教会 3 年間の計画発表、ビデオ、ねりあい

②後継者講習会に向けて動き出そう

この道を通る若者すべてが対象 「日々の陽気ぐらし」を 実践できるように

8月末から来年3月までご本部で開催される後継者講習会。
教会になくってはならない人材を育てるため、受講を促そう。



(写真は立教 170 年開催「後継者講習会」より)

課題

- 少子化による若者の絶対数の減少
- 若年層の教会離れを食い止めたい
- この道を通る自信と誇りを持ってもらいたい

施策①

- 教会で生まれた**教会長子弟全員**を教会活動の中心となる人材に育成するための
「教会長子弟育成プロジェクト」

施策②

- この道を信仰する**すべての若者**を教会になくってはならない人材に育成するための
「後継者講習会」

身近なところから陽気ぐらし

後継者講習会の目的は、道を通る若者が、日頃から喜び勇んで信仰生活を送り、陽気ぐらしに向かって成人の歩みを進めていくことができるよう、導くことにあります。

中心となるテーマは「日々の陽気ぐらしの実践」。陽気ぐらしの根本となる親子関係、夫婦関係などを改めて見つめ、それぞれの持ち場立場でできる「陽気ぐらし」を探し、実践するための気づきと、前向きな心を作ります。

講習会の詳しい内容はまだ発表

されていませんが、講義、ビデオ、参加者同士のねりあい、感話などが予定されています。その中から教えに基づく生き方を改めて心に治め、親子・夫婦といった身近な関係の中から陽気ぐらしを実践できるように導きます。

若者が集まる場として

また、同じ世代の多くの若者たちが、2泊3日寝食を共にし、語り合うことで、「自分と同じ立場の人が、こんなに大勢いるんだ」という気づきや安心感を共有することができます。

その中で講師や世話係、同じ班

にいる年上の先輩たちからさまざまな体験談を聞くことができ、その喜び勇んだ姿に「この教えに間違いはない」という自信や誇り、「自分も頑張ろう」という勇み心を持つことができます。

育成プロジェクトとの連携

現在の若年層育成の流れの中で、「**教会長子弟育成プロジェクト**」は「**教会で生まれ育った教会長子弟全員**」を道に繋ぐための動きであり、いわば「**将来、教会の中核となる人を育てる**」ことを目指しています。一方、「**後継者講習会**」は教会長子弟にとどまらず、「こ

の道に引き寄せられた、20 歳から 40 歳までのすべての若者」が対象となり、彼らが「教会になくはならない人材へと成人」するための講習会です。

ですから、教会長子弟はもちろんのこと、子弟と共に道を歩んでくれる若者たちにも積極的に受講を促していただきたい。こうした若い人材は、教会の未来へ向けての明るい灯となることでしょう。この講習会は教会にとっては人材発掘の好機であり、受講した者にとっては絶好の成人の場となります。

今後の教会の動き

1 月 25 日にはご本部よりポス

ター、チラシなどが配布される予定です。まずは教会における若者の状況を把握し、その方にもれなく案内用チラシを配布して、周知徹底をお願いします。また教会にポスターを掲示するなど、雰囲気作りも必要でしょう。

そして、何よりも重要なことは、受講対象の教会長子弟がいるのなら、必ず受講させていただきたいのです。教会長子弟が率先して受講する姿が、他のようばく・信者子弟にもいい影響を与え、ひいては教会の将来の姿にも大きな影響を与えます。

さらに受講後には一人ひとりに感想を聞くなど、直接本人に声をかけていただきたいのです。講習

会で前向きな気持ちになっている時期を逃すことなく、積極的に教会の活動に誘い、「教会になくはならない人材」へと成人できるよう、心を配っていただきたいのです。

10 年前に開催された前回の後継者講習会では、芦津大教会から 1,044 名が受講申し込みをしましたが、実際に受講したのは 406 名にとどまりました。今回は、受講対象者がもれなく受講できるよう、教会長の皆様のきめ細やかで粘り強い丹精をお願いします。

※講習会の詳細は石川健郎（大教会）までお尋ねください。

今後の教会の動き

●受講対象者の把握

受講対象となる「20～40 歳の若者」を把握する。

1 月 25 日 本部より各次数の人数割り当て発表
2 月～4 月中旬 受講希望次数の調査

●受講対象者へ連絡

対象者に声をかけ、受講を促し、受講可能な次数を調査する。

4 月下旬 所属教会へ受講次数の通知

●受講案内の配布

受講次数が決定次第、受講次数を連絡し、受講案内を渡す。

8 月～来年 3 月 後継者講習会受講

●受 講

欠席のないよう、受講の最終確認を行う。

欠席の場合は、早急に担当者に連絡し、別の次数で受講可能か調整。

●その後の丹精

受講後、直接本人に感想を聴くなど、教会から声をかける。

日頃から教会につながるよう、きめ細やかな丹精。



(写真はいずれも立教 170 年開催「後継者講習会」より)

3月3日(金)～9日(木)

学生生徒修養会 大学の部

- 場所 本部施設
- 内容 教理の学習（講義・講話）、グループワーク、にをいがけ、ひのきしん、鳴物、おてふりなど
※期間中、別席を1席運べる日を設ける
- 費用 9,000 円
- 受講資格 大学・短期大学・大学院・専門学校・高等専門学校（4年生以上）

3月28日(土)

春の学生おぢばがえり

- 芦津直属隊
26日 15時受付開始 15時30分開会
～28日 16時解散予定
- 場所 芦津詰所
- 内容 オリエンテーション、前夜祭・式典参加、直属アワー
- 対象 高校生（新1年生を含む）、大学生、短期大学生、大学院生、専門学生など



3月10日(金)～12日(日)

学生生徒修養会 高校生卒業コース

- 場所 本部施設
- 内容 講話、ねりあい、グループワーク、お楽しみ行事 など
- 費用 4,000 円
- 受講資格 平成28年度高校卒業予定者

3月29日(水)～31日(金)

わかぎの集い

- 29日 12時受付開始 13時開講
- 場所 芦津大教会
- テーマ わかぎGO！
～見つけよう、新しい自分～
- 内容 おつとめ練習、グループタイム、ひのきしん、レクリエーション、会食など
- 対象 よふぼく子弟のわかぎ（中学生）

3月31日(金)

第47回少年会芦津団総会

- 午前10時開会 受付開始8時30分
- 場所 芦津大教会
- 内容 おつとめ、総会式典、成人門出式、お供え作品展 お楽しみ行事（食事・ゲーム模擬店、ステージ）

人を育てる「座右の書」

人を導くために参考となる書籍を紹介します



●危機の指導者チャーチル／富田浩司著

「誠実でなければ、人を動かすことはできない。人を感動させるには、自分が心の底から感動しなければならない。自分が涙を流さなければ、人の涙を誘うことはできない。自分が信じなければ、人を信じさせることはできない。」

●新潮選書 ●1,404 円（税込）

伝えるときには大切なのは、「何を伝えるのか」はもちろんのこと、「どんな人が伝えるか」が物をいう場合もあります。本書は、第2次大戦で存亡の危機を迎えたイギリスを救った首相・チャーチルの勇気、信念、決断力といった、人を導くために必要なことを、丁寧な筆致で綴った興味深い1冊です。

①教会長子弟育成プロジェクトとは？ ②後継者講習会に向けて動き出そう

あしっ 育成だより 1

立教180年1月23日発行
編集 / 天理教芦津大教会育成部